

学生との連携

2. 大学生インターンシップによる商店街魅力化に向けた活動

石狩市・花川中央商店街振興組合

■ 地域の概要・現状

札幌のベッドタウンとして発展した石狩市の花川中央商店街では、平成29年に35回目の開催を迎えた「にゅうふるさと夏まつり」のほか、はしご酒イベント、商店街の若手有志によるガーデニング、イルミネーションなどの活動に取り組んできたが、札幌圏への消費の流出、経営者の高齢化による廃業や空き店舗の増加、後継者不足が課題となっている。

■ 地域商店街魅力化モデルプロジェクト

石狩市では平成29年度からスタートした第4次石狩市地場企業等活性化計画の施策として地域商店街の活性化のため、「地域商店街魅力化モデルプロジェクト」を開始した。

初年度は花川中央商店街をモデル地域に、12名の学生が8月の1ヶ月間、就業体験やイベントの企画・運営、商店街魅力化プランを提案した。

■ 商店街での就業体験とイベントの開催

学生たちは、クリーニング店や青果店、コミュニティカフェなど6店舗で4日間の就業体験に参加。接客や販売などを体験し、店主や地域との交流につながった。

学生企画イベントは、藤女子大学の協力で実施した「花川中央商店街実態調査」の結果を踏まえ、商店街に訪れてほしい来客層を意識して企画された。「いしかりンピック」と名付けられたイベ



[参加した大学生]

ントは、小学生以下を対象に、通りに設置された目印を探したり、商店でのお手伝い等で得られるポイントを競う「宝探しレース」と、大人向けに商店街内の飲食店と学生による露店を巡る「飲食店ラリー」が実施された。露店では企業から食材協賛を受けて、てりやきチキン丼を振る舞った。

■ 学生による商店街活性化の提案

プロジェクトには、市内、道内外、遠くはアメリカの大学生も参加した。市外からの参加者は市が用意したシェアハウスで生活し、ホームステイも経験した。参加した藤女子大学花川キャンパスの学生は、「普段は商店街に足を運ぶことはなく、商店街を知る良い機会になった」と話す。

就業体験とイベント実施を経て、大学生は「花川中央商店街魅力化プラン」をまとめ、季節のイベントや商店街バス停へのイスの設置などの活性化策を商店街関係者へ提案している。



[商店街関係者へ向けたプレゼンの様子]

■ プロジェクトの効果と今後の展望

商店街では、学生の視点で考えられた提案を受けたことにより、商店街活動への意識が変わったとのことで、今後は商店街で話し合い、活性化に向けた取組を実施したいと考えている。

市は、プロジェクトを継続し、市内の他の商店街にも取組を広げ、地域商店街の魅力アップを推進することとしている。

取材先

■石狩市企画経済部商工労働観光課（石狩市花川北6条1丁目30-2）

TEL 0133-72-3166

■花川中央商店街振興組合（石狩市花川南2条2丁目241）

TEL 0133-72-4575